



風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.13

平成 30 年 11 月 22 日発行



山茶花

主体的・対話的で深い学び

校長 富永 浩文

毎月、2回程度行われている全校算数についてご紹介します。この時間は、1年生から6年生までの20名がワークルームに集まり、1時間算数の学習を行います。



全校算数の学習は、通常の算数の学習とは異なります。ここで取り組む問題は、応用、発展的な問題が中心です。既習の知識や技能を活用し、思考力、判断力、表現力を育てることを目指します。各学年の担任が用意した問題に対して、まずは自力解決を目指して取り組みます。当然、解決の速さには違いが出てきます。そこで、子どもたち同士で協力しながらの解決に移ります。子どもたちは互いに試行錯誤しながら解決を目指します。「主体的・対話的な学び」が展開されるのです。

解決できた子どもは、担任のところにもっていき、問題解決の過程（問題の解き方）を説明します。ところが、担任から曖昧なところをつかれます。きちんと説明できないと合格をもらえません。筋道立てて表現することが求められます。ここでより確かな理解に結びつく「深い学び」が展開されるのです。

学校では、新しい学習指導要領に基づき、必要とされる資質・能力の育成を目指して取組を行っています。特に、思考力、判断力、表現力の育成が求められています。そのための方法として、「主体的・対話的で深い学び」という「学びの質」を大切にしたい学習が重視されています。上に紹介した学習も、正にこの質の高い学びの一端を表しています。



さらに、この全校算数の良さは、学年をこえた学び合いにあります。上の学年の子どもがミニ先生になって、下の学年の子どもに、わかりやすく問題解決の方法を教えてやれることです。教えてもらう子どもは気軽に解決の方法を聞き、理解できます。教える子どもは、わかりやすく教えることによって、自らの思考力を育てることができます。自己有用感も高めることもできます。教師は学習の様子を見守り、ほとんど手助けをしません。子どもたちの信頼関係を基盤にした「主体的・対話的で深い学び」が展開されるのです。

さて、6年生が学習の振り返りで次のように発表しました。「〇〇さんにわかるようにがんばって説明したのですが、うまく説明できずわかってもらえませんでした。悔しかったです。」学びに対する直向きさを感じ、とてもうれしかったです。この子にとってこの日は自己有用感を高めることはできませんでしたが、思考力や学びに向かう力は、間違いなく高まったに違いありません。

3・4年生 大活躍！！

糸魚川ユネスコ世界ジオパーク学習交流会 2018 11月16日(金)



広いステージで、胸を張って堂々と発表する5人。大きな拍手、手拍子が起こり、盛り上がりました。その姿が、とても頼もしく感じました。

真面目に、そして一生懸命に表現する姿、格好良く、美しかったです。

サケの採卵・授精活動 11月19日(月)



採卵から授精、そして、水槽へ。命のリレー、新しい命のスタートを、体験をとおして学びました。

理科センターの吉田先生、谷口先生、内水面漁協の草間さん、優しく、ていねいに教えてくださいました。

学校運営協議会(コミュニティ・スクール)

～平成31年度スタートに向け準備を始めています。～

糸魚川市では、学校運営協議会制度を導入し、地域とともにある学校づくりを進めています。一般に、コミュニティ・スクールと呼ばれています。



これまで、木浦小学校では、地域の皆さんや保護者の皆さんのご理解・ご協力を得ながら、学校づくり、子どもたちの教育に取り組んできました。また、学校の教育活動の状況については、学校評議員さんに年2回説明を行い、その都度、建設的なご意見をいただき、学校教育の改善、充実に役立ててきました。

来年度、木浦小学校においてコミュニティ・スクールをスタートするにあたり、そのポイントを広く紹介します。

1 目標を共有することとおして、同じ方向で、学校づくりに取り組みます。

- ① 学校や地域の課題の共通理解を図り、目標を共有します。その上で、学校の教育方針を承認いただくと共に、学校運営や教育活動に対して、委員の皆様からご意見をいただきます。
- ② 年3回の定期的な会合で、学校運営や教育活動の進捗状況をもとに、その改善・充実に向けご意見をいただきます。
- ③ 協議会の委員は、保護者や地域の有識者、学識経験者、学校と関係する機関の職員、学校職員など、多様な立場の方からなります。(現在の学校評議員は6名ですが、校長も含め10名程度の委員でスタートします。)

2 地域の核となる学校づくりを行うこととおして、地域づくりにもつなげます。

- ① 学校運営や教育活動の充実に向け、主体的な話し合い(熟議)をとおして、アイデアを出し合ったり、地域人財のネットワークを広げたりします。
- ② 学校運営協議会の取組の様子を地域に広く発信し、成果や課題をみんなで共有します。学校の応援団の輪を広げます。
- ③ 地域による学校(学校運営や教育活動)への参画と、学校による地域づくり(活性化)への貢献が相互に行われるように、学校と地域との協力、協働関係を一層強めます。



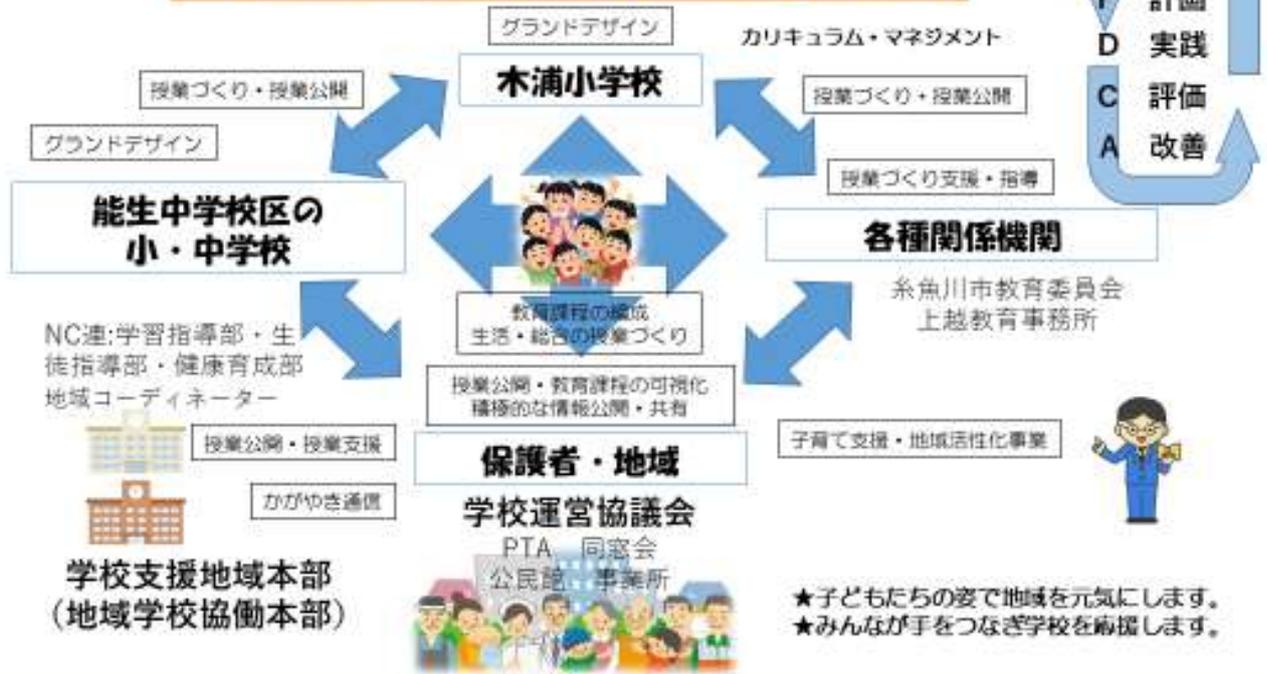
*木浦小学校の強みを生かし、小規模でも質の高い学校づくりを地域ぐるみで進めていくために、さらに、地域づくりにつなげていくために、コミュニティ・スクール導入をチャンスにしたいと考えています。よろしく願いいたします。(裏面には、地域とともにある学校づくりの概要図を掲載しました。)

社会に開かれた教育課程

地域とともにある学校づくり

目標の共有 役割分担 連携・協働による取組

マネジメント・サイクル



きれいに咲きますように！ チューリップの球根を植えました。

新潟県花卉振興協会のご厚意で、チューリップの球根を 300 球いただきました。11 月 15 日、晴れ間を見て、校舎の前の花壇に、みんなで一人 10 球ずつ心を込めて植えました。冬の寒さを乗り越えて、春には美しい花が咲くことでしょう。

